

### 第3回富田林市水道事業ビジョン策定委員会議事録

日時 平成28年9月27日15:30～17:15

場所 富田林市消防本部4階会議室

#### 【出席者】

委員 神子委員長、笠原委員、阪井委員、今澤委員  
富田林市 阪本部長、鶴谷次長、山際次長、西端課長、香川参事、北野課長代理、岩崎課長代理、大津主幹、中野係長  
日水コン 武石氏、瀬川氏

#### 【議題】

- ① 現時点で想定される将来の事業環境について（資料1）
- ② 水道事業の理想像と目標、推進する実現方策について
- ③ 今後の予定

#### 【配布資料】

資料1 現時点で想定される将来の事業環境 水道事業の理想像と目標、推進する実現方策  
参考資料 甲田浄水場（水処理施設のみ）存廃の検討

#### 【質疑応答及び意見】

##### 1. 現時点で想定される将来の事業環境

- [委員長] 日野浄水場と企業団の両方が停止する場合は想定していないのか。また、甲田浄水場の送水機能を廃止しない理由は何か。
- [事務局] 日野浄水場と企業団の両方が停止する場合は想定していない。また現在の送配水形態のまま廃止すると自己水、企業団の2系統化が実現できなくなることで、ピーク時に必要な水量を流入できない配水池があることから、当面は甲田浄水場の送水機能を廃止しないとしている。
- [委員長] 甲田浄水場の存廃の検討に関する資料は、ビジョンに掲載するのか。
- [事務局] 今のところその予定はない。
- [委員] 管路の耐震化とは具体的に何をするのか。
- [事務局] 耐震管（耐震性を有する継手の管路）に取り替えることである。
- [委員] p51：表4.1のどの管が、耐震管に相当するのか。
- [事務局] ダクタイル鋳鉄管のGX形、KF型、NS形、S形、SII形と鋼管、ステンレス鋼管、高密度ポリエチレン管を耐震管としている。これについては第2章に記載しているが、本表でも耐震管に印を付けるなどわかるように工夫する。
- [委員長] p47：資産の将来見通しに使用した法定耐用年数について、管路が抜けてないか。
- [事務局] 管路の記述（管路：40年）を加えるようにする。

## 2. 水道事業の理想像と目標

- [委員] 理想像と目標との関連がわかりにくい。また、「未来へおくる水道」単体では理想像が見えにくいのではないかと。
- [事務局] 再度、整理させていただく。

## 3. 推進する実現方策について

- [委員] 全般的に、現状・課題について、これまでに説明されている内容が見受けられ、また、具体的取組の下が空白となっているページが多いがどうか。
- [事務局] ここでは、現状・課題と今後の具体的取組を対比できるように整理している。空白の部分については、数値目標やスケジュールを掲載することを検討している。
- [委員長] 第6章の章見出しについて、体系図とも語句が異なっており、改めたほうが良いのではないかと。
- [事務局] 検討する。
- [委員] p59: 「前駆物質の流入」を「自然由来の有機物」としてはどうか。
- [事務局] そのように修正させていただく。
- [委員長] 水質管理上留意すべき項目について、全てが浄水場で処理できるのものではないと考えられるため、処理できないものは重点的な管理に努めていると考えて良いかと。
- [事務局] そのように考えてもらって良い。例えば、ハロ酢酸対策については、前塩素処理から中間塩素処理に見直すなど、前駆物質からその発生を抑制する取組も行われている。
- [委員長・委員] p62: 「おいしい水」という表現は適切か。水道水の用途は風呂、洗濯、トイレなど多様であり、飲料水としてはミネラルウォーターが普及している現状において、水道水のおいしさにこだわることはないのではないかと。アルミ製のボトル水について、企業団水をボトルに詰めているものであれば、製造とは言えないのではないかと。
- [事務局] 表現を改める。
- [委員] ボトル水は、市民駅伝やマラソンなどで配布しているのか。
- [事務局] 市民駅伝やマラソンなどではないが、PRを兼ねて寺内町燈路のイベントなどで配布したことはある。
- [委員] p69: 共同備蓄する資機材とは具体的には何を指すのか。また、近隣事業者とはどこで、何か具体的な取組が行われているのか。広域的な災害を考慮するとむしろ近隣ではない方が良いのではないかと。
- [事務局] 共同備蓄を考えている資機材とは、主に管路の復旧に使用する管材や補修材のことを指しており、これがわかるような記述を加えたい。また、近隣事業者との共同備蓄について、現時点では各事業者が保有している資機材について情報提供が行われている程度である。広域的な災害だけではなく、突発事故の際にも速やかに資機材を確保するためには近隣で備蓄する方が良い点もある。また、個別に協定を結んでなくても、熊本地震や東日本大震災では、日水協大阪府支部を通じて、物資や人材などの応援が行われている。

- [委員] 資機材の共同備蓄について、各事業体で備蓄する量を減らすことを目的とするのであれば、持続の方に入るのではないか。
- [事務局] 検討する。
- [委員] p69:「資機材」という言葉が何度も出ているが、それぞれ違った意味で使用されているようなので、修正したほうがよいのでは。
- [事務局] 修正する。
- [委員] p71:水道水の備蓄に関する広報はウェブサイトだけであり、広報紙による広報は行われていないのか。応急給水拠点などの情報については、どのような方法で広報を行うのか。また、4行目について「ここでは・・・」ではなく「ウェブサイトでは・・・」とした方がよい。
- [事務局] 広報紙を使用した広報は危機管理室で行った実績があり、危機管理室のウェブサイトでも広報しているため、全般的に記述内容を再検討する。なお、これまでリーフレットのようなものは作成していない。
- [委員] p72:甲田浄水場の送水施設も将来的に廃止するのか。
- [事務局] 現時点では検討中であり、廃止するとは決まっていない。
- [委員] p73:水道料金の改定が先ではなく、水道料金以外の財源の確保や経費削減を進めた上で、最終手段として水道料金の改定が行われる流れではないのか。また、課題のところでは、「水道料金の改定が不可欠」でなく、「財源の確保が必要」と表現を改めた方がよい。
- [事務局] ご指摘に基づいて修正する。
- [委員] p76:大阪広域水道企業団等との統合となっているが、「等」の意味するところは何か。
- [事務局] 大阪府広域的な水道整備計画(案)の将来年次計画に表現に合わせており、南河内地域では、市町村同士の水平統合の可能性も含めて、大阪広域水道企業団等と表現している。
- [委員長] p74:業務マニュアルの作成とあるが、現在、1つもマニュアルが存在しないのか。
- [事務局] 一部の業務についてはマニュアルがあるため、誤解を生じないように表現を改める。
- [委員] 事故や災害が発生した場合、実際どのような行動をとるのか。
- [事務局] 防災無線や車のスピーカーを使用して広報活動を行う他、避難所において応急給水を行う。大きな災害が発生した場合には、緊急遮断弁により配水池の水を確保するほか、応援の受け入れなどが行われる。
- [委員長] 水道と市民との関係はどうありたいのか。
- [事務局] 近年、突発事故により広い範囲で赤水が発生したが、情報を迅速に伝達するため、自治会長などを通じた連絡網を構築しておくことが必要と感じた。
- [委員] 赤水が発生した際に、広報車がまわってくるのが遅い。災害緊急メールのようなものには対応できないのか。
- [事務局] 災害緊急メールは府下全域に発信されることが制約となり使用できなかった。また、市のあんしんメールはあまり普及していない。
- [委員] 水道のPRが少ないような気がするので、ミニ知識などの紹介など、より水道が市民に近くなるような広報を行って欲しい。

- [委員] 水道管の布設替工事の際に水道管が露出していることがある。一時的ではあるが、少し離れた地区からの通学路にもなっているため、もう少し広い範囲に広報するなどの配慮があっても良いかと思う。

#### 4. 今後の予定

- [事務局] 次回委員会は当初の予定通り 10 月 31 日を予定するが、開始時間を 14:00 から 15:30 に変更する。
- [事務局] 次回委員会では水道事業ビジョン素案として、その全体版と概要版を提示する。

以上